



認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-48-21-303
TEL:03-3372-9777 FAX:03-5351-2395
E-mail:info@baj-npo.org

郵便振替口座 00130-1-739924 口座名 ブリッジエーシアジャパン



www.baj-npo.org

BAJで検索! ▼

BAJ 🔍



認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

年次報告書

2021年1月1日~12月31日

2021年度



2021年に達成した活動成果

in Myanmar

ミャンマーの活動

2021年は、連日5,000人を超すコロナウイルス感染者の出現と、2月に起きた国軍によるクーデターの影響で、さまざまな移動規制や集会の禁止により、BAJラカイン州での活動は中止や延期といった事態になりました。しかしラカイン州は比較的活動の余地があり、BAJでは安全を確保し、模索しながら可能性のある活動を進めました。

以下は2021年に進めた活動の成果です。

建設・修繕の成果／すべてマウンドー

カルバート(4メートル以下の橋)建設 4本	アクセス道路などの整備 8本	貯水池の修繕 5か所
井戸修繕 4本	建設を完成させた学校校舎 8棟	車両の修理・整備 569台
燃料のろ過 20回(17,675ガロン)	ソーラーパネル(街灯)設置 62本	キャッシュフォーワーク参加者(労働力提供者) 791名

現地職員対象の研修事業

研修の延べ実施日数 78日	延べ参加者数 45名
-------------------------	----------------------

in Vietnam

ベトナムの活動

ベトナムも2021年はコロナウイルス感染拡大の影響を受け、小・中学校では休校が相次ぎ、対面での授業機会が少なくなりました。さらにBAJ直売所の売上げも減少しました。しかしオンラインによる授業やスタディーツアーを実施することで、新たな手法を開拓しています。

オンラインを中心に進めた活動／フエ

環境教育の実施回数 22回	授業を受けた生徒数 671名	輝けアジアの子ども基金を受けた生徒数 50名
-------------------------	--------------------------	----------------------------------

BAJ直売所の活動

年間の売上高 2,118,743,936 VND (ベトナムドン/100,000≒470円)	月平均の利益率 3%
--	----------------------

エコツーリズム活動

オンライン・スタディーツアー3回実施の参加者数 45名

浸水洪水被害緊急支援活動

支援金を授与した世帯数 172世帯

ベトナム事業サポートボランティアチームの活動

会議開催回数 14回	会議の延べ参加者数 46名
----------------------	-------------------------

ごあいさつ

2021年も引き続き、コロナ感染拡大による国内活動の自粛や、ミャンマークーデター後、各地で起きている紛争による移動や渡航の規制、さらには資金移動への規制などにより、活動の進捗を計画通りに進ませることが困難となりました。しかし、東京ではオンラインを活用して会議や報告会などを実施し、またベトナムではオンライン・スタディーツアーを開催して好評をいただき、今どきの運営スタイルで事業を進めることができました。これも現地職員の努力の賜物と感謝しています。

NGO活動は市民社会の多様性に応える活動であり、ボランティアや寄付を通じて個人の価値観を表現することができる事業です。その内容は「環境」「難民」「障がい者」「ジェンダー」「人権」など、個人の尊厳にかかわる問題から、地球規模の課題までふくみ、公助や自助に対して、市民として対応しようと活動する「共助」にあたります。

あらためて、ご支援やご協力をいただいた皆様に御礼を申し上げます。

海外事業の状況について、まず内紛が継続するミャンマーでは、COVID-19は国軍の発表によれば22年に入って一段落しているという情報がでていますが、しかしクーデターによる治安の悪化は拡大しており、ラカイン州マウンドーで進めている「支援ニーズ即応事業」については、東京本部とオンラインで緊密に連絡をとりながら、現地職員が安全を確保して進めることができました。

ベトナム事業は、やはりCOVID-19の影響を受けながら

も、オンラインをフルに活用しての環境授業を進め、後半ではオンラインによる日本人参加のスタディーツアーを開催することができました。また3回目旅行会社との共催を実現して好評を得ており、22年もオンライン・スタディーツアーに関心を示しているグループや問い合わせがあり、今後の進展に期待しています。



認定特定非営利活動法人
ブリッジ エーシア ジャパン
代表 **根本 悦子**

東京事務所では、時短やリモートワークを組み合わせることで出勤のシフトを組むなど年間を通して対応を継続しました。BAJカフェや報告会など対面の行事は中止とし、インターン受け入れに際してもオンラインを活用して進めました。フルタイム事業は順調に推移し、イベントなど一部中止した活動などあったものの、2014年に開始して以来の最高収益をあげることができました。21年もNGOと企業や学生をつなげる事業をおこなう「二枚目の名刺」や「ドットジェイビー」を受け入れ、オンラインで活動を進めることができました。

ミャンマーでは内紛の終息が覚束ない状況ですが、小規模でもできることを進めることと、またベトナムではオンラインを活用した新たな事業に挑戦できた年となりました。

BAJの4つの使命

The Four Commitments of BAJ

1 技術習得や 能力強化の 機会を提供します	2 収入向上を 支援します	3 地域発展 のための 環境基盤の 整備を進めます	4 環境を守り 啓発活動を 進めます

海外支援活動

ミャンマーでの活動

BAJは軍事政権下にあった1995年より、ミャンマー北西部ラカイン州で国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) の事業実施団体 (IP) として、ムスリム難民の帰還促進事業を進めてきました。

2007年に軍出身のテイン・セイン氏が首相に就任し、軍政主導の政治体制の改革が始まり、翌年には新憲法案の国民投票がおこなわれ、民主化への道を歩み始めました。2015年に民主政権発足後、初の総選挙がおこなわれ、NLDの圧勝によりアウンサン・スーチー氏の政権が成立しました。世界各国からの援助や企業が入りはじめ、NGOの活動も進めやすくなりました。

ところが2021年2月1日、国軍によるクーデターが勃発し、以降民主化勢力と国軍による内戦状態へと突き進んできました。さらに11月に入り、約1年間停戦状態が続いていたアラカン軍 (AA) とミャンマー国軍の衝突がラカイン州北部で再発し、モスリム系住民が難民となって隣国のバングラデシュへと流出しています。また多民族を巻き込んで、国軍に対する民主勢力の反軍闘争が拡大し、治安状況は悪化の一途をたどっています。国連やASEANを中心とする国際社会からの働きかけがいくつもなされましたが、依然として有効な打開策を見出だせていません。

BAJが活動をおこなうラカイン州は国内全土での混乱に比して、比較的安定した状態が続いていましたが、銀行機能の制限や物価上昇の影響は免れず、6月以降、現地行政機構から活動実施許可が下りなくなったことにより、ラカイン州での事業実施は大きな制約を受けました。また、予算確保が難しくなったこと、事業期間延長の影響もあり、一部事務所の閉鎖など厳しい判断が必要となりました。

新型コロナウイルスの影響はミャンマー国内でも続き、6月以降新規感染者が急増しはじめ、7月下旬にはピークに達



しました。連日5,000人前後の新規感染者数を記録し、酸素ボンベの不足や、クーデターによりさらに脆弱性を増した医療システムがこの状況に拍車をかけました。8月に入ると感染者数は徐々に落ち着きを見せ、それ以降新規感染者数は比較的低い値で推移しています。

日本財団との学校建設事業は、コロナで延期していた2020年度の事業の残り8校の建設を2021年3月までに完成させ、第2期3年計画の全16校の建設事業を完了し、引き渡し式をおこないました。

UNHCR事業は、車両等機械類の整備事業と支援ニーズ即応事業 (QIP事業) を進めました。車両等機械類の整備事業は大きな影響を受けることなく実施できましたが、支援ニーズ即応事業は、6月以降、現地行政機関からの活動許可が下りなくなったことにより、一時活動を中断するなどの影響を受けました。

日本人スタッフが現地へ行くことができない状況が続くなか、メールや電話、またオンライン会議システムなどを活用し、現地と緊密に連絡を取りながら事業運営をおこなっています。また、現地スタッフの能力強化として、オンラインでさまざまな研修やトレーニングをおこないました。

引き続きミャンマー全土で続くことが予想される不安定な政治情勢、またコロナウイルスへの備えを怠らず、状況を注視しながら今後も事業運営を進めていきます。

1 ラカイン州の活動

① 車両など機械類の整備事業とその他 資金：UNHCR

ラカイン州北部で活動する団体や組織の活動支援

ラカイン州はバングラデシュと国境を接する辺境の地です。この地域で生活するムスリムの人々に対する締め付けは厳しく、危険を感じると人々は国境を越えてバングラデシュへと逃れてきました。1992年には約23万人の人々が難民となって流出する事態となり、UNHCRが入って難民の帰還を進めてきました。同時に世界食糧計画 (WFP) や国連開発計画 (UNDP) などの国連機関や国際NGOがこの地域にはいて、帰還民の対応や帰還促進を計ってきました。BAJはそうした活動を進める国連機関や国際NGOなどの車両やボート、発電機などの整備・保守をおこなっています。また燃料のろ過サービスは機械類を安全に使用するためには欠かせません。1月～12月に実施した修理・メンテナンスは562回、ろ過サービスは17,675ガロン (約66,899kl) でした。2月に発生したクーデター以降も、当事業は大きな影響を受けることなく実施できました。

また、新型コロナウイルスの感染再拡大以降、感染対策の一環として、現地で活動する国連機関や支援団体の車両に対し、飛沫防止用のパーテーション設置などをおこないました。

② 支援ニーズ即応事業 資金：UNHCR

避難民帰還のための環境整備

バングラデシュからの避難民の帰還と再定住に向け、ラカイン州北部の生活環境改善を目的として、小規模インフラ整備を実施しました。内容は、連絡道路の建設や改修、給水設備の整備、貯水池の整備、ソーラー式街灯の設置など、どれも生活の必要に応じた事業です。

6月以降、現地行政機関からの活動・移動許可が得られず、また大雨の影響、コロナ感染拡大による活動制限などにより一時建設を中断する場面もありましたが、これまでの経験を踏まえ、建設の進捗管理やモニタリングを遠隔でおこなうなど、全面的に中断させることなく活動を継続しました。

その結果、2021年度に計画した計21の小規模インフラ整備事業のうち、道路建設や貯水池の整備、ソーラー式街灯の設置事業などを含む16の事業を年度内に完了しました。完了できなかった学校建設、給水設備整備など5つの事業については、2022年度に持ち越して実施予定です。

作業にあたっては、「キャッシュ・フォー・ワーク」(Cash For Work) の手法を導入し、就労機会に恵まれない村人をインフラ整備に従事する労働力として事業に参加してもらい、現金収入の機会を提供しました。

2021年の事業進捗は以下。

No.	部名	事業地	民族構成	内容	施工開始	進捗
1	マウンドー	Nyaung Chaung村	ムスリム	連絡道路建設	2020/6/25	2020/12/25再開 2021/2/5完成 ※2020年度より引き継ぎ
2		Pa Din村	ムスリム	連絡道路建設	2020/7/11	2020/12/21再開 2021/1/16完成 ※2020年度より引き継ぎ
3		Tha Yet Oke村	ラカイン	連絡道路改修A 連絡道路改修B、カルバート	2020/7/11 2020/12/1	2020/11/24再開 2021/1/16完成 ※2020年度より引き継ぎ 2021/3/31完成 ※2020年度より引き継ぎ
4		Min Ga Lar Ah Sheik Kyar村	ムスリム	給水設備整備	2021/4/23	25% ※2022年度へ繰越し
		Ah Bu Gyar村	ムスリム		2021/6/1	10% ※2022年度へ繰越し
5		Kyauk Hlay Kar村	ダイナ	給水設備整備	2021/2/22	2021/5/13完成
		Thea Chaung Pyu Su村	マラマジー		2021/3/1	2021/5/13完成
		Ywar Thit村	ムスリム		2021/3/31	2021/5/19完成
6		(Du) Nyaung Pin Gyi村	ムスリム	連絡道路改修	2021/4/25	2022/1/16完成
7		Thea Chaung Pyu Su村	ムスリム	学校設備改修	未着手	未着手 ※2022年度へ繰越し
8	ブティン	Ah Lei Chaung村	ムスリム	連絡道路改修	2021/5/1	2022/1/30完成
9		Mee Chaung Zay村	ムスリム	貯水池整備	2021/6/1	2021/12/17完成
10		Hpaw Tay Ahr Li村	ムスリム	貯水池整備A	2021/5/24	2021/12/2完成
	貯水池整備B			2021/11/15	2021/12/30完成	
11		Ywar Thit村	ムスリム	貯水池整備	2021/12/1	2022/1/6完成
12	マウンドー	Pa Din村	ムスリム	給水設備整備	未着手	未着手 ※2022年度へ繰越し
13		Nyaung Chaung村	ムスリム	給水設備整備	未着手	未着手 ※2022年度へ繰越し
14		Ah Bu Gyar村	ムスリム	ソーラー式街灯設置	2021/3/24	2021/4/12完成
15		Tha Yet Oke村	ラカイン	ソーラー式街灯設置	2021/3/24	2021/4/12完成
16		Min Ga Lar Ah Sheik Kyar村	ムスリム	ソーラー式街灯設置	2021/3/24	2021/4/12完成
17		U Daung村	ラカイン	貯水池整備	2021/4/26	2021/7/16完成
18		Aung Thar Yar村	ラカイン	給水設備整備	未着手	未着手 ※2022年度へ繰越し
19		Tha Yet Oke村	ラカイン	カルバート修繕	2021/8/2	2021/9/3完成
20		Dha Gyi Zar村	ムスリム	ソーラー式街灯設置	2021/8/14	2021/8/17完成
21		Tha Yet Oke村	ラカイン	連絡道路改修・カルバート	2021/9/21	2021/11/26完成

*灰色セルは21年度内に完了した事業。



2 学校建設を通じたコミュニティ開発事業

資金：日本財団

学校と地域をつなぐ

ミャンマーの村の学校校舎は多くの場合、保護者や地域の人々の寄付などで建てられています。ヤシの木や竹などが材料で耐用年数は数年ですが、床や屋根に開いた穴が放置されているなど、危険な校舎が少なくありません。BAJでは本事業を通じてこれまでに、鉄筋コンクリートによる148校の校舎をこの地域に建設してきました。新しい校舎には、トイレを設置したので女子児童の登校が増えたり、教師も増えています。

一方で、日本の学校のように自分たちで掃除する習慣がありません。またPTA活動も少ないので、教師と一緒に保護者が学校について考え行動する機会を作ろうと、「PTA活動強化支援」を始めました。

また、新しい校舎にはサイクロンなどの避難場所として活用してもらおうと計画していましたが、それがうまく伝わっていないことが分かりました。そこで新たに「防災研修」として、村のハザードマップや避難経路の作成などの研修機会を設けました。さらに教育環境の整備という意味も込めて、一部の学校については教材樹木園(教材林)の併設を計画しました。しかし、残念ながらコロナ禍とクーデターの影響で、実施できる範囲は限られました。

①学校建設事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、全活動を2020年8月下旬以降中断していましたが、12月より順次再開。中断していた8校を2021年3月までに完成させ、第2期3年計画の全16校の建設事業を完了しました。4月までに各学校に引き渡しをおこないました。

また事業終了に伴い、ラカイン州シトウェ事務所とタウンゴップ事務所は3月末を持って閉鎖し、関係各機関への連絡をおこないました。

2021年の事業進捗は次頁の通りでした。



No.	郡名	村名	サイズ・建設タイプ	施工開始	進捗
1	シトウェ	Mingan	130ft x 30ft・鉄筋コンクリート構造	2019/11/16	2020/12/20再開 2021/3/15完成
2		Pasoe Pyauk	60ft x 30ft・鉄筋コンクリート構造	2019/10/21	2020/5/31完成
3	ミエボン	Pyayt Chaung	100ft x 30ft・鉄筋コンクリート構造	2020/1/1	2020/12/1再開 2021/2/23完成
4		Toke Chaung	100ft x 30ft・鉄筋コンクリート構造	中止	—
5		Din Gar Ya	60ft x 30ft・鉄筋コンクリート構造	中止	—
6	タウンゴップ	La Mu Maw	70ft x 30ft・鉄筋コンクリート構造	2019/10/7	2020/5/13完成
7		Kyoe Kyar Kwin	60f x 30f・鉄筋コンクリート構造	2020/5/21	2020/12/9再開 2021/2/15完成
8	タンドウェ	U Yin Pyin	60ft x 30ft・高床式	2020/3/6	2020/12/22再開 2021/1/7完成
9		Maday	60ft x 30ft・高床式	2020/3/28	2020/12/22再開 2021/1/14完成
10		Bu Yae Myet	120ft x 30ft・鉄筋コンクリート構造	2019/10/15	2020/3/15完成
11		Pan Hpe	60ft x 30ft・避難所機能付	中止	—
12	マナウン	Kan Zun	80ft x 30ft・鉄筋コンクリート構造	2019/10/15	2020/3/31完成
13		Yae Myet Wa	60ft x 30ft・避難所機能付	2019/10/21	2020/5/28完成
14		Nyaung Kone	80ft x 30ft・鉄筋コンクリート構造	2019/10/15	2020/3/31完成
15	ラティドン	Taung Hla Maw	60ft x 30ft・鉄筋コンクリート構造	中止	—
16	ブティドン	Mee Ya Thar Seik	80ft x 30ft・鉄筋コンクリート構造	2019/11/1	2020/4/9完成
17		Ku Toet Seik	60f x 30f・鉄筋コンクリート構造	2020/5/15	2020/12/2再開 2021/1/15完成
18	マウンドー	Myo Ma (West)	120ft x 30ft・高床式	2019/11/25	2020/4/30完成
19	バウトー	Dar Kaing	80f x 30f・鉄筋コンクリート構造	2020/5/21	2020/12/7再開 2021/1/28完成
20		Lwan U	80f x 30f・鉄筋コンクリート構造	2020/5/21	2020/12/10再開 2021/2/22完成

(1ft≒30.48 cm)



②PTA強化研修

PTAによる校舎の保守管理能力の向上を目指して、保護者を中心に集ってもらい、PTAの役割、手洗いなどの衛生知識、ごみ処理などを学ぶ研修を実施しました。しかし新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、州政府からの活動許可が下りず、2020年8月下旬以降、活動を中断し、事業期間中に再開することができませんでした。残念ですが、以降の活動を取り止め、第2期3年次事業を終了することになりました。



上写真は感染拡大前の2020年に撮影

③教材林活動を含む防災研修

学校の災害リスク軽減を目標に、第3、4学年の児童およびPTAメンバーを対象に、災害時の校舎利用方法をふくめ、災害から身を守るための基礎知識を学ぶ3日間の防災研修をおこないました。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年8月下旬以降、州政府からの活動許可が下りず活動を中断しました。その結果、事業期間中に再開することができず、以降の活動を取り止め、第2期3年次事業を終了することになりました。

また環境教育の一環としておこなっている教材樹木園(教材林)の植林活動も、同様に2021年の活動は中止となりました。



上写真は感染拡大前の2020年に撮影

3 ヤンゴン事務所の活動

事業を進める「縁の下の力もち」

ミャンマー事業全体を統括するヤンゴン事務所は、ミャンマー国内の各事務所の人事、スタッフ移動支援、物資調達、スタッフと車両への保険付保、各事業の会計取りまとめ、助成機関への報告書提出、現地監査の受入れ、中央および地方行政機関への報告書提出などを進めました。

国際スタッフの出張、駐在員、専門家の派遣は、2020年度に引き続きコロナ感染拡大による制限と、さらにクーデターによる影響でビザ取得に困難が生じ、実現できませんでした。また、同様の理由でカウンターパートの国境省国境地域開発少数民族省(NATALA)との四半期会合も開催が難しく、4月に一度オンラインで開催したのみで、基本的に書面でのやり取りとなりました。

UNHCR関連では、パートナー団体の必須要件の一つであるプロキュアメント・ステータス(通称PQPステータス:物資調達のガイドライン認証手続き)について5年に一度の更新作業があり、2020年11月から準備を進め、5月に無事に更新することができました。

一方、ミャンマーで活動するうえで重要な認証であるINGOステータスについて、こちらも5年に一度の更新作業が中断しています。クーデターの影響で当局(登録局)の機能がストップした影響であり、他の多くのNGOも同様の困難な状況にあります。BAJは現在、INGOステータスが申請中のままで止まっており、ビザ手配などができない状況に置かれており、次年度以降の課題となっています。

人事に関しては、HRマネジメントフォームという簡便な人事評価シートを1月より導入しました。まずは現地リーダースタッフ向けにリーダー人材の育成を兼ねて試験運用し、最終的には現地スタッフ全員を対象に運用する予定です。3か月ごとに各人の業務内容を振り返り、お互いの業務を理解し合うツールとなります。

①企業・団体などとの面会

コロナおよびクーデターの影響で面会はおこなわれませんでした。



②その他

ミャンマーで活動する日本のNGOネットワーク組織であるJNN(Japan NGO Network)の幹事団体として、2021年度はBAJとARTIC(れんげ国際ボランティア会)が受けることになりました。7月20日にオンライン総会が開かれ、前任の監事から業務を引き継ぎましたが、BAJは現地に職員を派遣できておらず、在ミャンマー日本大使館とのオンラインによる定期会合に出席できず、メーリングリストの管理が主な業務となりました。

また、ヤンゴン事務所の勤務体制として、2月以降の治安悪化を受け、変動的にリモートワークを認める形態とし、柔軟に勤務体制を調整しました。

③新型コロナウイルスの感染状況

国軍統制下にある保健省データによれば、全国の陽性者数は7月末にかけて2020年の最大値の約4倍にあたる5,831人/日で、死者数は8月初頭にかけて同10倍にあたる374人/日と発表されました。一方国民統一政府の疫学者によれば、実態はそれぞれ20,000人/日、死者1,000人/日の恐れがあるとしています。この数値は、人口比で比べると欧米のピーク時に相当するもので、また報道によれば、8月4日までに在留邦人4人が死亡しています。

医療体制の不備により国立病院の医療は崩壊し、市民が入院治療できる医療機関は限られ、ほとんどの発症者は自宅療養を余儀なくされています。酸素ポンプの販売店や工場には、購入を希望する市民の行列がニュースになっていましたが、ヤンゴンでは8月3日に酸素ポンプの個人向け販売が停止されました。

軍政の保健省によれば、2022年1月1日までのワクチン接種率は、1回接種者が28%、接種完了者が38%で、軍政は「年内に国民の50%接種」という目標を達成したとしています。軍政による接種プログラムへの不信、中国製ワクチンの効果と品質管理、副反応時の医療体制への不備などから接種を拒否・忌避する市民もいて、接種率の信憑性を疑う市民もいます。

10月28日に一部地域を除きロックダウンが解除され、4か月ぶりに11月1日から学校を再開するよう軍政は指示しました。一方、各種制限措置と入国制限措置および国際線着陸禁止措置は、2022年1月末まで延長されました。なお、12月28日以降、帰国者入国者および市中の陽性者310人からオミクロン株が検出されています(2022年2月1現在)。





海外支援活動

ベトナムでの活動

ベトナム戦争が終結し、復興に向けて試行錯誤していた1982年、日本から米やポンプなどを送って支援を続けたご縁でベトナムに招待され、当時のホーチミンや近郊を視察しました。現地の様子を目にしたことをきっかけに、連絡員をホーチミンに置き、孤児や障害児の支援を開始しました。

1993年には、BAJの前身となる「インドシナ市民協力センター」をたちあげ、本格的に活動を開始しました。2002年にはホーチミンに事務所を開設し、2名の駐在員を派遣して、ベトナムで問題となっているゴミ処理の調査を8都市でおこないました。調査のなかで、ホーチミンの貧困地域でゴミ分別収集の実証実験をおこなったことを契機に、マイクロクレジットや子どもたちの就学支援へと発展させていきました。

2009年、貧困地域の再開発が始まって住民移転が本格化し、BAJの活動地域を中部のトアティエンフエ省に移し、フォン河の水上生活者や川沿いの貧困地域住民を対象に、生活環境の改善に取り組む活動を開始しました。電気や水道のない、衛生状態の悪いなかで感染症が広がっており、BAJでは水道の設置や薬の配布などをおこないました。

水上生活では、川底が浅くなる季節に川砂を採取する仕事で生活をたてているため、季節になると子どもも一緒に手伝い、学校へ行かなくなります。BAJは勉強についていけるように、学習塾を開設し、大学生のボランティアが子どもたちの勉強をサポートする仕組みを作り、就学を進めました。

BAJはこれまで、カウンターパートである行政機関と相談しながら事業を進めてきました。フエは王宮のある古い都で、観光を目玉にしています。しかし都市化が進み、環境を汚染する養豚や儲からない農業に対し農地を売ってしまう農家が多く、さらなる都市化が進んで景観が失われていく実態があります。BAJは2014年ごろから行政機関と連携し、貧困農家の支援として、バイオガス・ダイジェスターの普及と、畜糞を活用した循環型農業を進めました。こうして育成された有機農畜産物の販売促進を目的に、2014年には、出荷農家自身が運営する農産物の販売所を開設し、農家の収入

ベトナム

フエ連絡事務所

向上へとつなげ、2016年には2号店も開設しました。

2020年10月、ベトナム中部に豪雨をともなった台風が襲来し、大きな浸水災害となりました。BAJでは緊急救援募金を開始し、2021年2月には被災した小規模農家に支援金を配賦しました。またBAJが以前から実施しているフエ市内の小・中学校児童・生徒を対象に、環境教育の出前授業をおこない、あわせて地域の防災教育授業を実施しました。

2021年5月に入り、コロナウィルス感染の再拡大がはじまり、学校は休校となり、夏休みの間も続いたため、環境教育活動はオンライン授業で対応しました。さらに現地スタッフが居住する地域でも感染者が見つかり、隔離措置が取られて一時期出勤ができない状態が続きました。

農家の生計向上支援活動では、直売所の収益もコロナ禍の影響を受けましたが、宅配を開始するなど現地スタッフの経営努力により赤字になることはありませんでした。

また、地域の小規模農家の価値を発信するエコツーリズム活動も、コロナ禍で実施できませんでした。しかしオンラインツアーを検討した結果、6月に初のオンラインツアー（テスト版）を実施し、好評を得て早くも8月に第2回のオンライン・スタディツアーを開催し、自信を深めることができました。さらに三回目は旅行会社と組んで12月に実施し、東京事業として今後もオンラインツアーを進めていくことを計画しています。

9月になり感染者数が減少し、学校では新学期が始まりましたが、通常の授業が遅れているため、BAJの環境教育授業は引き続きオンラインでの実施となりました。10月に実施したオンライン授業では、通常の数倍にあたる生徒が参加し、大いに盛り上がりました。2021年は、オンラインによる事業の可能性を実感した年となりました。

1 環境教育事業

資金：輝けアジアの子ども基金、その他ベトナム寄付

子どもたちと環境の問題を考える

フエ市内の3つの学校で、カリキュラム「生きる力を伸ばすための活動」時間の一部として、BAJが以下の授業を実施しました。コロナ禍のなかで、年間で22回、延べ670名の子どもたちが参加し、授業を通して幅広い活動をおこないました。

実施日	学校	学年	人数	テーマ
1月 8日	ラムモンクアン中学校	6年生、7年生	30	洪水時の安全対策
1月 20日 am	トゥイスワン小学校	4年生、5年生	13	サンクスレターを書こう
pm	トゥイスワン小学校	4年生、5年生	38	サンクスレターを書こう
1月 21日	ファムクアンアイ中学校	6年生、9年生	46	サンクスレターを書こう
3月 3日 am	トゥイスワン小学校	4年生、5年生	22	食育(BAJ紹介、農家講演など)
pm	トゥイスワン小学校	4年生、5年生	30	食育(BAJ紹介、農家講演など)
3月 4日	ラムモンクアン中学校	6年生、7年生	27	食育(BAJ紹介、農家講演など)
3月 18日	ファムクアンアイ中学校	6年生、9年生	33	食育(BAJ紹介、農家講演など)
3月 24日 am	トゥイスワン小学校	4年生、5年生	17	食育(調理実習)校舎内
pm	トゥイスワン小学校	4年生、5年生	27	食育(調理実習)校舎内
4月 3日	ラムモンクアン中学校	6年生、9年生	20	食育(調理実習)畑
4月 8日	ラムモンクアン中学校	6年生、7年生	20	食育(調理実習)畑
6月 3日	ラムモンクアン中学校	6年生、7年生	20	自然農業の作り方*
6月 9日	ファムクアンアイ中学校	6年生、9年生	20	自然農業の作り方*
6月 30日	トゥイスワン小学校	4年生、5年生	71	自然農業の作り方(YouTube)*
7月 13日	トゥイスワン小学校	4年生、5年生	71	自然農業の作り方(学校Website)*
8月 2日	ラムモンクアン中学校	6年生、7年生	20	フエとあなた(フエの自然、まち、歴史)*
8月 7日	トゥイスワン小学校	—	—	フエとあなた(YouTube)*
8月 9日	ファムクアンアイ中学校	6年生、9年生	10	フエとあなた(フエの自然、まち、歴史)*
10月 8日	ラムモンクアン中学校	6年生、7年生	20	交通安全のちしき*
10月 15日	ファムクアンアイ中学校	6年生、9年生	73	交通安全のちしき*
12月 31日	ラムモンクアン中学校	1・2年生、6~8年生	43	プラスチック・リサイクルとリサイクル定規寄贈

*オンライン授業

2 教育支援事業

資金：輝けアジアの子ども基金

楽しい環境学習

毎年新学期の9月に、学校側と協議して奨学金を授与する子どもたちを選びます。予定していた2つの中学校への授与は、コロナの影響で延期となり、12月にラムモンクアン中学校に対しようやく授与できました。ファムクアンアイ中学校については2022年1月26日に授与しました。実施状況は以下の通りでした。

日付	学校	学年	人数	授与額
2月 5日	トゥイスワン小学校	1年生~5年生	20	300,000VND/人
12月 24日	ラムモンクアン中学校	1年生~8年生	20	500,000VND/人

(100,000VND≒470円)



3 畜産業経営強化支援事業

資金：自己資金

農業を強くする

① バイオガスダイジェスター(BD)の管理

BAJはこれまでにフエ市に設置した約80基以上のBDについて、フエ市経済部や農家からの問合せに対し、修理や維持管理のサポートを担当してきましたが、2021年度はとくに問合せがなく、対応する機会がありませんでした。

② 農畜産物の販路拡大

2014年12月末にオープンした農畜産物直売所は、2016年に2号店をオープンし、2019年4月に「JICA草の根技術協力事業」を完了しました。その後、直売所1号店の運営を農家グループが引き継ぎ、2号店は引き続きBAJの運営とすることとし、同年8月に店名を新たに「フエ日本式農家の店」と変更してリニューアルオープンしました。

当初は順調に推移していましたが、2020年2月半ばからコロナ禍の影響で売上げ額は減少傾向にありました。2021年も同様にコロナの状況によって、売上げは変動しました。

コロナ感染拡大の影響で多くの企業や店舗が廃業に追い込まれていますが、一方では食料品を取り扱う店が増加し、競合相手が増えています。2号店ではオンライン販売や販売品目の多様化、無料配送サービスの導入、Facebookを活用した広報宣伝など、売上げを伸ばすための努力を続けています。

8月～9月は感染拡大の心理的影響から、消費者の食料品買いだめ傾向が見られ、売上げは増加しましたが、翌月は反動で大きく落ちこみました。主力商品の豚肉は、11月にアフリカ豚熱が流行した影響で仕入れに苦労しました。また12月は感染拡大によって人の移動も制限され、売上げに少なからず影響がありました。

2021年の直売所の経営状況は以下の通り。

期間	売上(VND)	純利益(VND)	利益率(%)
1月	176,890,220	1,090,770	4.3
2月	237,192,070	10,316,300	0.4
3月	141,208,790	522,790	2.8
4月	162,500,490	4,619,340	1.6
5月	182,091,280	6,381,320	3.5
6月	161,962,260	3,817,260	2.4
7月	159,787,525	4,133,610	2.6
8月	171,435,525	8,970,170	5.2
9月	198,287,130	10,712,420	5.4
10月	144,681,330	5,497,760	3.8
11月	207,776,611	4,150,931	2.0
12月	174,930,705	4,208,055	2.4

(100,000VND≒470円)



③ 直営畑の管理

BAJ直売所が運営するトゥイビュ畑について、現地スタッフから毎月2回ほど届く畑の栽培や収穫状況の報告によれば、2020年の洪水被害から畑は回復し、1月には収穫量が例年並みに戻ったと報告がありました。4月に畑の借地契約を更新し、5月はホウレンソウ、ヘチマなどを収穫。6月は気温が高温(40-42度)になったため、野菜の生育に影響が出ました。7月はスイカ、ミズアサガオなどを収穫。8月は日差しが強く雨も少なかったため、作物の育ちは遅くなっていると報告がありました。9月、畑の管理人フンさんが事情により退職することになり、後任として17日よりタイさんが新管理者として従事しています。10月は例年の豪雨により、野菜(サツマイモ、シソ、ニンジンなど)の収穫量に影響しましたが、11月は無事に収穫。12月はパパイア、レタス、キャベツ、ニンジン、豆などを育てました。

4 エコツーリズム

資金：自己資金

現地とつながろう

2020年度は新型コロナウイルスの影響で、生産者訪問事業を実施することができませんでした。しかし2021年度は、フエの子どもたち向けに食育授業を通じて生産者訪問イベントを実施することができました。ただし、残念ながらコロナ禍の影響で日本からの研修およびツアーは実施できませんでした。

コロナ感染の収束見通しは立てづらい状況ですが、旅行会社と取組むオンラインツアーをBAJで実現できないか、東京とフエで検討し、準備を進めた結果、第一回目のオンラインツアーを実施、好評を得た現地職員はさっそく二回目のオンラインツアーを計画実施し、三回目は旅行会社とタイアップしての開催となりました。

実施日	ツアータイトル	人数	募集方法
6月28日	世界遺産の町フエの持続可能なアグリツーリズムを応援するツアー	13	BAJ理事、BAJボランティアを中心に声掛け
8月28日	世界遺産の町フエにてコロナに負けないオンライン・アグリツーリズムを応援!	18	BAJボランティア、マンスリーサポーターを中心に声掛け
12月 4日	ベトナム [BAJxPITコラボ企画] ベトナム中部・古都フエの農家を訪ねて	14	旅行会社PITによる一般公募



5 浸水被害緊急支援

2020年10月12日以降、数回にわたる台風の襲来によってベトナム中部に生じた「数十年に一度」の大規模な浸水被害が起きました。被災農家の支援をおこなうため、東京事務所では「ベトナム・フエ市浸水被害緊急募金」を開始し、多くの方からご支援をいただきました。

2021年度は、調査に基づき第二期の追加支援として、フエ市から遠方にある農家世帯に対して支援金を授与しました。詳細は下記の通り。

日付	村	地区	給付世帯数	支援金総額(VND)
2月 2日	Quang Phu	Quang Dien	20	20,000,000
2月 2日	Phong Thu	Phong Dien	21	21,000,000
2月 3~4日	Hong Thuong	A Luoi	27	27,000,000
2月 3~4日	Hong Van	A Luoi	3	3,000,000
2月 3~4日	A Roang	A Luoi	15	15,000,000
2月 3~4日	Dong Son	A Luoi	15	15,000,000
2月 5日	Huong Xuan	Nam Dong	30	30,000,000
2月 6日	Quang Ngan	Quang Dien	21	21,000,000
2月 9日	Phong My	Phong Dien	20	20,000,000
合計			172	172,000,000

(100,000VND≒470円)

支援金の授与に際しては、個別訪問は難しかったため、各地区の公共スペースで当局の担当者立ち会いのもと、実施しました。また、第二期の緊急支援活動として追加の支援金授与を2月に完了しました。3月13日には本活動のオンライン報告会を開催しました。また、2020年12月にフエ市外務局に対し支援金を寄付し、7月にその支援金を活用して購入された参考書などの贈呈式がおこなわれ、現地職員が参加しました。日程と場所は下記の通り。

日付	学校	地区・村	生徒数
7月16日	Huong Huu 小学校	ナムドン地区Huong Huu村	386人

ナムドン地区はフエの南に位置し、毎年洪水の被害を受ける地域で、人口23,000人のうち、4割が少数民族(KinhとCotu)で構成されている地区です。Huong Huu村は95%が少数民族の世帯で、昨年の洪水被害がとくに大きかった場所です。



6 その他

東京事務所のベトナム・ボランティアサポートチームは、2019年6月からフエ事務所と東京をオンラインでつなぎ、会議を実施し、活動に関する情報共有や環境に関する授業内容の検討、エコツーリズム開催に向けてのアイデアなど、不定期ですが検討会を実施しました。



TOKYO



東京本部の活動

ミャンマー・クーデターによる事業活動の減速や、世界的なコロナ禍によるさまざまな規制で戸惑いながらも、知恵を絞って事業の継続を進めてきた1年でした。

東京事業の柱となりつつある古着回収活動「フルクル」のほかに、「輝けアジアの子ども基金」「BAJまるごとサポーター」「夏・冬募金」を継続し、資金調達に努めました。また活動報告会やイベントなど現地の様子を伝える活動はコロナ禍の影響を受け、対面での実施はできませんでした。しかしオンラインによる実施など新しい試みに挑戦しました。

ベトナム・フエの有機農業活動を紹介するスタディーツアーや、活動をサポートするボランティアチーム会議、あるいは理事会や総会、定例会議などは日常的にオンラインで進めました。

海外支援の取組みとして、ミャンマーの現地職員の能力向上やモチベーションの維持を図ることを目的に、東京で現地派遣のために待機している国際スタッフによる現地職員対象の研修や、その他現地リーダースタッフへの各種トレーニングをオンラインで実施しました。また、同時に国連機関が定めるガイドラインの勉強会やBAJ内部の各種規程類の改定などについての研修も進めました。



UNHCR関連では、パートナー団体の必須要件の一つであるプロキュアメント・ステータス(通称PQPステータス:物資調達のガイドライン認証手続き)の5年に一度の更新作業があり、2020年11月から準備を進め、5月に無事に更新することができました。

一方、ミャンマーでは、海外のNGOがミャンマーで活動するうえで重要な認証であるINGOステータスについて、更新作業が2020年度から中断しています。クーデターの影響で当局(登録局)の機能がストップしている影響であり、日本のNGOだけでなく海外のNGOも同様の困難を抱えています。BAJは現在、INGOステータスが申請中のままで止まっており、ビザ手配などができない状況に置かれており、次年度以降の課題となっています。

1 主な事業と資金調達

NGOの活動は、その活動内容に共感した個人や、企業の方々からの寄付やボランティアの参加が基本です。資金としてはほかに、国際機関や公的機関からの助成金・補助金があります。

BAJの2021年度の資金構成は、助成金・補助金が約90%を占めており、寄付を拡大することが課題となっています。しかし寄付は、社会の景気や大きな災害などに左右され、安定的に寄付金額を維持するのはなかなか難しい課題です。また会費については、会員は減少傾向にあります。寄付は増加傾向にあります。その要因は、寄付は関心のある取り組みに好きな時に好きなだけ支援できますが、会費は団体の維持に向けられており、また寄付のように税制控除の対象とならないことも要因の一つであると考えます。

BAJの会費・寄付の傾向も同様に、例えばミャンマーの支援についてクーデター以前は支援のお話が複数ありましたが、2021年度は動きが取れず棚上げ状態でした。また、ベトナムではコロナ感染拡大を受けて、現地の研修受入れやツアー受入れが引き続きできませんでした。さらに全体として学校建設事業を終了したことが、事業資金減少の大きな要因となっています。

①助成金・補助金・委託金・寄付など

2021年の主な事業資金の調達状況は以下の通りです。

No.	案件・事業の名称	事業期間	資金・寄付	事業金額
ミャンマー・ラカイン州				
1	支援ニーズ即応事業実施サポートと車両等機械類の修理・整備	2021.01~2021.12	国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) / 委託事業	1,446,286,297.59MMK + 65,561.04USD
2	学校校舎建設とコミュニティー開発 第2期3年次	2019.09~2021.04(完了)	日本財団 / 委託事業	2,471,000.00 USD 完了(再延長完了)
ミャンマー・ヤンゴン/日本・東京				
1	Japan Toy Museum(移動おもちゃ美術館)事業	2021.01~(未定)	自己資金	1回150,000円 未実施
ミャンマー・エーヤワディー地方				
1	ミャンマー学校マンダラ防風林植林事業	2021.1~2021.9	花王ハートポケット倶楽部・花王	400,000円(未定)
ベトナム				
1	子どもの教育支援、環境教育等	2005.04~2021.12	輝けアジアの子ども基金	912,000円(年)
2	零細農家支援事業(直売所運営、エコツーリズム等)	2014.05~2021.12	自己資金	800,000円(年)
3	ベトナム・フエ市洪水被害緊急支援*	2020.10~2021.02	自己資金+緊急募金	2,606,561円(完了)

②会費・寄付など

BAJの活動に共感していただいた多くの方々により、会員、あるいは寄付でご支援をいただきました。2021年にご協力いただいた団体や組織は以下のとおりです。ただし個人からのご支援もたくさんいただきましたが、個人寄付は個人情報保護の観点からお名前を割愛させていただきます。(順不同・敬称略)

日本開発サービス、日光物産、大木組、ゆたか保育園、ピロタス、ダイナックス、峰秀興業、立教大学、ケア・センターやわらぎ、ブリッジャーズ、みなと自動車工業、テクナレッジ・ジャパン宮館産業、国際航業、バイオメディカルサイエンス研究会、G&Sフィールド合同会社、ソーワコンサルタント、グリーンエイト、ヤフー、アダム、セキュリアル、オンザウェイ、ロイヤリティマーケティング、アミーケインターナショナル、国際ビジネスコンサルティング事業協同組合、キャピタル工業

③会費・寄付・補助金・助成金の推移

BAJへの寄付・会費・補助金・助成金(事業指定のある寄付)については、日本財団資金による学校建設事業が完了したこと、ミャンマーの情勢変化による新規事業の見直しなどが要因となっています。過去5年間の経年推移は以下の通りです。

	個人・団体会費	寄付	助成金	補助金	授業他収益	合計
2017年	1,300,000	27,086,536	328,963,935	44,122,338	7,044,992	408,517,801
2018年	1,330,000	18,610,428	343,828,589	38,987,903	3,368,135	406,125,055
2019年	1,110,000	12,427,456	298,897,628	121,181,795	10,301,335	443,918,214
2020年	1,070,000	8,768,099	147,284,372	138,422,485	9,152,951	304,697,907
2021年	1,080,000	5,615,286	35,311,072	124,275,634	5,526,309	171,808,301

(単位:円)

④緊急募金・キャンペーン募金など

2020年10月中旬に、ベトナム中部で甚大な浸水・洪水災害が起き、フエ市行政当局からの支援要請を受け、緊急支援募金をおこないました。多数の皆様からのご協力で、2021年2月末までに2,606,561円を集めることができました。BAJでは被災したフエ市近郊農家もふくめて180世帯に救援金を配布することができました。

例年6月と12月におこなっている夏・冬募金でも多くのご支援をいただきました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

2020~2021年にかけて実施した募金キャンペーンは以下の通りで、新型コロナウイルスの対応などで実施期間が例年に比べて遅れてしまいましたが、夏募金は62万円が集まりました。

	募金タイトル	期間	金額(円)
1	VNフエ市浸水洪水被災支援募金	2020年10月~2021年2月末	2,606,561
2	冬募金:「友だちがいるんだ」	2020年11月~2021年2月末	883,437
3	夏募金:「一歩ずつ進む 何度でも」	2021年7月~10月	620,081
4	冬募金:「また一緒に はじめよう」	2021年12月~2022年3月末	1,337,748

2 管理部門の運営費用獲得のために

①フルクル(古着回収事業)

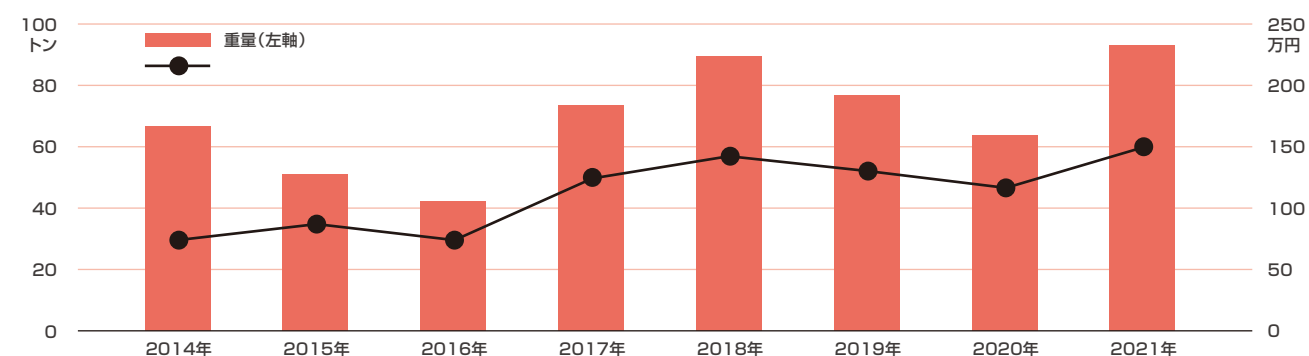
2011年より開始した「フルクル」は、2020年コロナ禍の外出自粛やイベント中止のなか回収量は落ち込みましたが、2021年は復調の兆しをみせ、最終的には92,403キログラムとこれまでの最多の古着を回収し、リサイクル業者の買取りで1,517,233円の収益をあげることができました。またフルクルの活動について、21年度の「脱炭素チャレンジカップ」に応募し、22年3月に優秀賞をいただきました。

服のリユース、リサイクルへの関心はSDGsの影響もあり高まっていますが、一方で、海外のある地域では古着が大量に遺棄されて問題になっていることが報道されています。フルクルの輸出先はそうした事態は起こっていませんが、いずれにせよ生産の過程で大量のCO2を排出し、また水資源を大量に消費するファッション産業に対し、大量廃棄の実態から、適量の生産、購入に切り替え、さらに循環再利用していくことが重要であることを伝えていきたいと考えます。

主に古着を扱う「フルクル」ですが、靴や毛布、ぬいぐるみなども集めています。2021年にフルクルにご協力いただいた企業、学校、グループは、175団体以上、家庭など個人は2万5000人にのぼりました。

古着回収の経年実績と収益額の推移は以下の通りです。

古着回収量および収益額の推移



② イベント開催による古着回収

地方のショッピングモールなどで土日や休日に、集客をねらった古着回収イベントが開催され、集められた古着の買取額の一
定金額がBAJに寄付されます。SDGsの効果もあり、古着をモール内の店舗で使える金券として発行するなどのイベントでは、フルクルの取組みが寄付先となっています。21年度に開催された古着回収イベントは以下の通りでした。

実施日	開催場所	イベント名	集荷数
2月 26~28日	グランデュオ立川	エコキャンペーン	27箱
3月1日~5月末	Gap全国約130店舗	Gap Recycling Project	2,579箱
6月 26日	本厚木ロード	下取り&買い替えキャンペーン	10箱
9月 24~26日	グランデュオ立川	エコキャンペーン	70箱
10月 1~10日	オリビア店舗	下取りキャンペーン	24箱
10月 1~10日	ファボーレ富山	リサイクルキャンペーン	984箱
10月 6~12月末	アニエスパー松屋銀座店	give loveプロジェクト	未集計
10月 22~23日	ルミネ大船	下取り&買い替えキャンペーン(会員限定)	81箱
11月 28日	ツインメッセ静岡	産業フェア静岡 SDGs体験コーナー	87箱

主に古着を扱う「フルクル」ですが、ほかに靴や毛布、ぬいぐるみなども集めています。
2021年にフルクルにご協力いただいた企業、学校、グループは、175団体以上、家庭など個人は約2万5000人にのびりました。

フルクルの詳細については、BAJのホームページか、QRコードをご覧ください。



③ ネットサイトを活用した物品寄付

ネット上に設定された寄付サイトとして、「本棚お助け隊」は専門書などの古本
を買取、その金額をBAJに寄付する仕組みです。また「お宝エイド」では、不要
なカメラやブランド物などを、集めています。2021年は両サイトで26件、
34,381円をご支援いただきました。



④ オンライン・スタディツアー

コロナ禍で実施が困難となったベトナム・フエ市での研修旅行やツアーの受入
れを、オンライン・ツアーとして再開しました。日本の支援者とリモートで結び、活
動の様子や、直営畑の野菜当てクイズなど楽しみながら交流をはかりました。詳し
くはベトナム事業の活動報告で紹介します。



⑤ マンスリー・サポーター事業ほか

支援者の口座から毎月定額を引き落としてBAJへ寄付する仕組みが2つあり
ます。学校と協議しながらベトナムの貧困家庭の子どもに奨学金を授与する「輝
けアジアの子ども基金」と、BAJの管理部門全般や緊急事態支援に対応できる
「BAJまるごと支援」です。両プログラムともに開始から15年以上経過しまし
たが、参加者は微増にとどまっています。今後は参加者に特典を付与するなどして
拡大を図っていきます。

2021年12月現在で、「輝けアジアの子ども基金」は1口2,000円で、延べ口
数43口、34名の方が参加、また「まるごとサポーター」は1口1,000円で延べ口
数140口、55名の参加をいただきました。



3 広報事業

もっと多くの人に伝えたい

季刊誌「BAJ通信」は日本の支援者や関係者に対し、四半期に一度の間隔で紙媒体で発行し、現地の活動を報告しました。また
総会終了後に年間のBAJ活動を報告する「年次報告書」を発行しました。SNS上では、BAJの顔となるホームページの更新を進
め、さらにオンラインでは毎月隔週で配信するメールマガジン、トピックスを随時あげるFacebookにくわえ、2023年の創設30
周年に向けてBAJの歴史を写真で紹介するインスタグラムを5月から開始しました。また、2019年から更新が止まっていた
Twitterについても11月から再稼働させました。

① BAJ通信、年次報告書の発行

BAJ通信の139号~142号を発行し、139号ではベトナム中部で起きた洪水被害緊急支援募金の活動報告を掲載しました。
142号では、ミャンマーの現地職員に対して実施した研修報告を掲載しています。発行部数は毎月700部前後でした。また6月
にはBAJの2020年度・年次報告書を支援者の皆さまにお送りしました。

②メールマガジン、Facebook、Instagram、Twitterなど

メールマガでは、活動記事を中心にした「BAJメールマガジン」と、イベント開催の記事やボランティア募集などの記事を掲載した「お知らせメールマガジン」をそれぞれ月1回配信し、毎月4,700件以上を配信しました。またInstagramでは毎週2回程度、創設30周年に向けた活動写真のアルバムと紹介記事を掲載しています。

活動を素早く伝えることができるFacebookやTwitterを随時更新し、ホームページと連動させて、より幅広い人たちにBAJの活動を知ってもらう工夫をしました。

③講演、講義、研究会、委員会、協議会、ネットワークなど

国際機関、行政機関との協議会、NGO・NPOの連絡会、また依頼による講義や講演、学会発表や研究会など、さまざまなグループの会議開催や協働事業があります。

団体・グループ名	内容
J-FUN	UNHCRと連携するNGO団体による交流・情報共有
NGO・外務省定期協議会	外務省に対する提案など意見交換の場
ケア・センターやわらぎ	高齢者対象の事業を推進
NGO-JICA協議会	JICAとNGOの意見交換と情報共有
JANIC/国際協力NGOセンター	国際協力NGOの連携団体、ベトナムNGO研究会など
東京おもちゃ美術館	絵本やおもちゃを通じて現地の子どもや親とつながる
バイオメディカルサイエンス研究会	ベトナムでの衛生事業について情報共有
SDGs市民社会ネットワーク	国連SDGs事業に協力して情報提供や提言活動など
ICVA(人道支援の提言団体)	UNCCRと協力して人道支援を実施するNGOの連携団体
日光物産	中古服の寄付活動フルクルを通してBAJ事業の支援
ドットジェイビー	インターン希望大学生の受け入れ
二枚目の名刺	NPOと企業の社会人を結び、NPOの課題解決をはかる
Gap(アパレル)	Gapの全国店舗の店頭で中古服を回収し、BAJに寄付
JNN	ミャンマーで活動するNGOの集まり、情報共有など

④ボランティア、インターンなど

「BAJカフェ」とは、活動に興味を持っている人を集めて、お茶とお菓子をいただきながら活動紹介と簡単なボランティア作業を一緒におこなうイベントですが、コロナ禍で約2年間開催できていません。そこで希望者については、オンラインでの面談や、少人数であれば対面での活動紹介をおこない、ボランティア希望者の受け入れを進めました。

2021年度は、東京事務所で毎月平均3名のボランティアを受け入れ、データベースの入力や事務作業、広報原稿の作成などを手伝っていただきました。

また、大学生とNPOをつなぐ活動を主宰する「ドットジェイビー」を通じて、年間4名の学生インターンを受け入れ、SNSの広報活用の再検討など、若い人ならではのアイデアを出していただきました。同じく、社会人とNPOをつなげるサポートプロジェクトを主宰する「二枚目の名刺」からは、さまざまな職歴の社会人メンバー4名が参加して、フルクルの営業戦略や支援者拡大の企画などの提案をいただき、一部実現することができました。

NGO活動では、さまざまな立場の人を受け入れることも、大きな役割の一つであり、今後も積極的に受け入れていきます。



4 海外事業支援

コロナ禍で新しい活動発見

世界的なコロナ禍の影響を受け、ミャンマーやベトナムでの事業運営は大きく影響を受けました。とくにミャンマー事業では、2月のクーデターにより、事業運営の上でさまざまな困難を抱えながら進めています。なかでもビザ発給の遅延で、職員や専門家派遣ができていません。そのようななかで、現地職員と緊密に連絡をとりながら、できることを進めました。

①エーヤワディーデルタ地域学校マングローブ防風林植林事業

資金：花王ハートポケット倶楽部/花王(株)

コロナ感染拡大の影響で2020年の植林と環境教育を、2021年に延期しましたが、2021年2月のクーデターの影響も加わり実施は困難となりました。小学校は閉校し続けており、実施予定の村には教員も戻っていません。またクーデター以降、Green Environment Development Association(GEDA、活動連携現地NGO)との連絡が取れず、BAJ東京と在ヤンゴン連絡ボランティアとの通信が適時に取れないうえ、ヤンゴンと実施村近くにいるGEDAメンバーとも連絡が困難になっています。

花王(株)の社会貢献部に対し、ミャンマーおよび実施地のコロナ禍およびクーデター以降の状況を毎月書面で報告し、再開計画が立てられない現状を説明しました。

②ミャンマー現地職員対象の研修事業

資金：自己資金

治安が安定しない状況のなか、職員のモチベーション維持を目的に、このような状況だからこそ能力向上を図る機会とすべく、現地職員に対し東京事務所からオンラインで研修をおこないました。研修は、ミャンマー駐在予定の職員(シニア・エデュケーションオフィサー)が企画・実施しました。

研修内容	回数/期間	対象*					
		YPU	YA	YAU	YL	MPM	ML
ファシリテーション技術	9日/6月~11月	✓					
人道憲章と人道支援における最低基準	2日/6月~10月	✓					
プロジェクト・サイクル・マネジメント	16日/11月~12月	✓					
性的搾取・虐待からの保護	1日/6月		✓				
不正防止のためのガバナンス強化	18日/6月~12月			✓			
UNHCR調達事前審査資格更新	5日/3月~4月		✓	✓	✓	✓	
国連調達実務者のためのハンドブック	5日/4月~5月			✓			
Kaya-調達講座	1日/6月			✓			
Kaya-戦略的企画-調達ニーズ講座	1日/7月			✓			
UNHCR不正防止	1日/8月			✓			
ラカイン州における平和構築	5日/5月~6月						✓
人道憲章と人道支援における最低基準	7日/6月~8月						✓
NGO連携無償資金協力申請書作成	7日/5月~7月						✓

*対象 YPU:ヤンゴン事務所プログラムユニット
YA:ヤンゴン事務所アドミニストレーター
YAU:ヤンゴン事務所アドミンユニット
YL:ヤンゴン事務所調達担当
MPM:マウンドー事務所プログラムマネジャー
ML:マウンドー事務所調達担当



③Japan Toy Museum 活動

コロナの影響で2020年1月、東京おもちゃ美術館が主催するスタディーツアーおよび移動型おもちゃ美術館(Japan Toy Museum)をミャンマーのヤンゴン市内で実施したのを最後に中断しています。さらに2021年2月のクーデター以降、治安状況の悪化により、ますます再開が難しくなっています。2022年度は本活動の前身であるミニライブラリーの寄贈事業を小規模に再開することを計画しています。



2021年会計報告

活動計算書 (自2021年1月1日～至2021年12月31日)

【経常収益】		(単位:円)	
1. 受取会費(注1)	1,080,000	1,080,000	
2. 受取寄付(注2)	5,615,286	5,615,286	
3. 受取助成金等	受取助成金(注2)	35,311,072	159,586,706
	受取補助金(注3)	124,275,634	
4. 事業収益	5,526,309	5,526,309	
5. その他収益	3,007,541	3,007,541	
経常収益計(A)		174,815,842	

【経常費用】		(単位:円)	
1. 事業費	人件費	48,799,789	149,851,501
	その他経費	101,051,712	
2. 管理費	人件費	13,593,370	23,505,216
	その他経費	9,911,846	
経常費用計(B)		173,356,717	

【経常外費用】		(単位:円)	
3. 経常外費用	補助金返還額	0	0
経常外費用計(C)		0	0

当期経常増減額(A)-(B)	1,459,125
当期正味財産増減額(A)-(B)-(C)	1,459,125
前期繰越正味財産額(D)	65,664,223
次期繰越正味財産額(A)-(B)-(C)+(D)	67,123,348

注1 受取会費内訳	(単位:円)
個人会費	780,000
団体会費	300,000
受取会費計	1,080,000

注2 受取寄付・受取助成金内訳	(単位:円)
BAJ一般	2,001,215
まるごとサポーター	1,658,000
ミャンマー	582,624
ベトナム	199,447
ベトナム フェリス水害緊急	120,000
輝けアジアの子ども基金(ベトナム)	1,054,000
日本財団(ミャンマーラカイン州学校建設)	35,311,072
受取寄付・受取助成金計	40,926,358

※主な寄付先は「国内活動報告1 主な事業と資金(1)」にある表をご参照ください。

注3 受取補助金内訳	(単位:円)
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	
・ミャンマー/ラカイン州における車両等	124,275,634
機械類の修理・整備事業	
受取補助金計	124,275,634

事業別損益の状況

科目	ミャンマー			ベトナム事業	国内事業	事業部門合計	管理部門	合計
	ラカイン州地域開発事業	ラカイン州学校校舎建設とコミュニティ開発	中央乾燥地域における生活用水供給事業					
I 経常収益								
1 受取会費	0	0	0	0	0	0	1,080,000	1,080,000
2 受取寄付金	237,964	338,851	5,809	1,373,447	34,381	1,990,452	3,624,834	5,615,286
3 受取助成金等								
受取助成金	0	35,311,072	0	0	0	35,311,072	0	35,311,072
受取補助金	124,275,634	0	0	0	0	124,275,634	0	124,275,634
4 事業収益	2,606,085	1,356,605	114	17,000	1,511,505	5,491,309	35,000	5,526,309
5 為替差益	0	0	0	0	0	0	0	0
6 その他収益	0	0	0	48,642	0	48,642	2,958,899	3,007,541
経常収益計	127,119,683	37,006,528	5,923	1,439,089	1,545,886	167,117,109	7,698,733	174,815,842
II 経常費用								
(1) 人件費								
給与手当	34,655,034	12,264,877	39	1,879,839	0	48,799,789	10,943,082	59,742,871
法定福利費	0	0	0	0	0	0	2,494,288	2,494,288
退職給付費用・退職共済掛金	0	0	0	0	0	0	156,000	156,000
人件費計	34,655,034	12,264,877	39	1,879,839	0	48,799,789	13,593,370	62,393,159
(2) その他経費								
資機材費	76,219,264	7,580,044	3	1,307,407	0	85,106,718	0	85,106,718
派遣専門家費	0	0	0	0	0	0	0	0
広報印刷費	0	0	0	134	763,592	763,726	3,520	767,246
旅費交通費	561,114	1,117,086	1	234,946	0	1,913,147	362,960	2,276,107
通信運搬費	659,942	1,188,856	1	27,965	122,374	1,999,138	242,526	2,241,664
消耗品費	1,074,580	369,748	2	12,260	0	1,456,591	1,173,197	2,629,788
修繕費	2,031,572	214,601	1	95,721	0	2,341,895	0	2,341,895
賃借料	2,518,762	877,352	78	432,741	0	3,828,933	654,200	4,483,133
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0
保険料	642,243	360,488	4	0	0	1,002,735	152,620	1,155,355
調査研究・研修費	2,736	1,852	0	7,156	0	11,744	27,000	38,744
諸会費	0	0	0	0	0	0	191,715	191,715
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税等	0	0	0	0	0	0	70,000	70,000
支払手数料	214,047	12,214	0	22,518	0	248,779	297,133	545,912
為替差損	0	0	0	0	0	0	5,090,551	5,090,551
雑費	10,753	2,338,258	0	29,295	0	2,378,306	1,646,424	4,024,730
その他経費計	83,935,013	14,060,499	90	2,170,143	885,966	101,051,712	9,841,846	110,963,558
経常費用計	118,590,047	26,325,376	129	4,049,982	885,966	149,851,501	23,435,216	173,356,717
当期経常増減額	8,529,636	10,681,152	5,794	-2,610,893	659,920	17,265,608	-15,736,483	1,459,125

貸借対照表 (2021年12月31日現在)

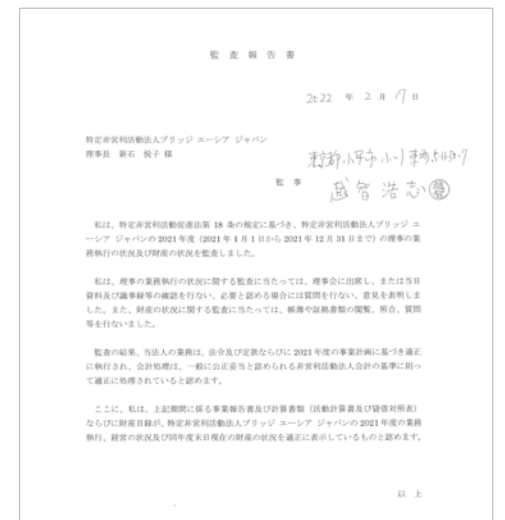
【資産の部】		(単位:円)		
流動資産	現金預金	現金	462,182	81,577,962
		流動性預貯金	35,997,346	
	ミャンマー現預金	44,308,505		
	ベトナム現預金	790,186		
	商品	14,690		
	立替金	0		
	未収入金	0		
	前払金	0		
	仮払金	5,053		
	未成工事支出金	0		
固定資産	有形固定資産	機械装置	1	1
	投資その他の資産	敷金	0	
資産合計				81,577,963

【負債の部】 (単位:円)

流動負債	未払法人税	70,000	11,205,316
	その他未払金	5,520,474	
	前受会費	20,000	
	前受寄付金	0	
	前受助成金	0	
	前受補助金	3,526,215	
	その他前受金	0	
固定負債	預り金	443,607	2,469,299
	仮受金	1,625,020	
	退職給付引当金	780,000	
負債合計			14,454,615

【正味財産の部】 (単位:円)

前期繰越正味財産	65,664,223
当期正味財産増減額	1,459,125
正味財産合計	67,123,348
負債及び正味財産合計	81,577,963



財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日NPO法人会計基準協議会)によっています。同基準では、特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

(2) 引当金の計上基準

・退職給付引当金
スタッフの退職給付に備えるため、就業規則に基づく期末自己都合要支給額から中退共制度の支給見込額を控除した団体負担見込額を計上しています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税は税込経理によっています。

2. 使途等が制約された寄附金等の内訳

内容	前期繰越	当期受入額	当期減少額	備考		
				期末残高	前受金	事業期間
国連難民高等弁務官事務所/ミャンマー・ラカイン州における車両等機械類の修理・整備/支援ニーズ即応事業	4,275,302	123,526,547	124,275,634	0	3,526,215	2020/1/1~2020/12/31 2021/1/1~2021/12/31

3. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

	(単位:円)			
	受取会費	受取寄付金	管理費 賃借料	合計
財務諸表に計上された金額	1,080,000	5,615,286	654,200	7,349,486
うち役員及び近親者との取引	70,000	328,000	560,000	958,000

4. 固定資産の増減内訳

科目	取得価格	期中増加資産	期中減少資産	当期償却額	償却累計額	期末帳簿価格
(有形固定資産) 機械装置・井戸掘削機	15,422,173	0	0	0	15,422,172	1

(単位:円)